



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより12月号
平成24年11月30日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 371-0757
FAX 381-7248

違いに学ぶ

副校長 今野 敏晴

学校坂の桜の木も葉を落とし、冬の天空に枝を張っています。今までは、満開の桜、若葉、深緑、紅葉と彩りの美しさで目を楽しませてくれていましたが、冬の容姿は、飾りを捨てたあるがままのつくりの美しさではないでしょうか。じっと寒さに耐えながら次の開花の準備をしている姿を見ると飾り気のないその枝々に来年はどんな花を咲くれるのかと楽しみにになります。

私たちは、人を判断するときには先入観や偏見が先に立ってしまうことがあります。その人のあるがままの姿を受け入れ、違いを違いとして認める感性が大切であると思います。

学校では、豊かな人間関係を築くためにあえて、違いのある相手と活動をする機会を保障しています。クラスや学年の友達、異学年、異校種（保育園・中学等）、異世代、地域間、異文化、障害をもった方たち等との活動です。その人たちといっしょに活動する中で、違いに気づき、違いに学び、違いを生かし合ったり、協力して乗り越えることによって相互理解を深めたりすることができる学びが大切であると考えています。

先日行われたウォークラリーもその一つです。1年から6年までの縦割りグループで活動しました。事前に縦割りのクラスで集まり、どこへ行って、どんな活動をするのかグループ毎に話し合い、行き先や遊び、グループの約束などを決めて出かけました。前日の朝会では、リーダーシップとパートナーシップの話をして送り出しました。当日は、気持ちのよい晴天の中活動することができました。安全に移動するために「2列で並んで」「端によって」と声をかけ、みんなで遊ぶときには、ドッジボールのボールを譲り合ったり、大縄で「ひっかかっても気にしなくていいよ」と声をかけたりする姿が見られました。どの子も笑顔が輝き満足そうでした。

12月は、誰もが、安心して、豊かに生活できる学校づくりを目指した人権週間の取組が行われます。本校は、今年度、一校一国運動（アフリカ諸国のうち、駐在大使館のある国を中心に横浜市立小中学校の希望校がそれぞれ1カ国について学習する活動）に参加しているため、交流国であるトーゴ大使館の方が来校し、5・6年生にトーゴの話をしてくれます。子どもたちがアフリカを身近に感じとり、多文化理解の充実につながることを期待しています。また、川島地域ケアプラザの方が来校し「認知症サポーター体験」を4年生で実施します。子どもたちが高齢者の認知症を理解して、思いやりの心を育てていけたらと考えています。1～3年生は、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」のひとつに取り組みます。自分の周りのお世話になっている家族や友達、先生などのかかわりの中でしてもらったり、言ってもらったりしてうれしかったことを書いた葉っぱを「ありがとうの木」にはっていきます。周囲の人に助けられて生活している実感をもつとともに、お世話になっている人に自分になにかできることはないかを考える機会にしたいと思います。

冬の樹木が、不要なものを一切そぎ落とし、すべてのエネルギーを次の芽吹きに向けて蓄えているこの季節、自分の心の内面をさらに鍛えていってほしいと思っています。自分らしさとは、決して自分の心の内側だけのものではなく、他者との関係、社会との関係で成り立つものです。多様な人々とのかかわりの中で違いを認め合い、友好的人間関係を築いていってほしいと願っています。